

木質繊維断熱材ウッドファイバー 防火構造30分の認定取得進む

木の繊維

木の繊維（札幌市、工藤政利社長）は、09年10月から木質繊維断



適度な柔軟性があり隙間なく
充てん施工できる

熱材ウッドファイバーの製造・販売をしている。同品はインシュレーションボードに似た断熱材で92年にドイツで開発された。同社は工場を北海道内に置き、道産のカラ松、トド松の間伐材や林地残材を原料とする。木質繊維が85%、15%がバインダーと難燃処理剤で、F☆☆☆☆品として使用できる。

熱伝導率は高性能グラスウール16Kやロックウールと同等の0.038W/(m・K)で、II-VV地域では壁に100mm厚、天井は150mm厚で次世代省エネ基準を満たす。ボード状だが適度な柔軟性があり、多少大きめに裁断し充てんすることで簡単に隙間のない施工ができる。天然素材ゆえの安心・安全はもとより、国産材活用という他にはない唯一の特徴が差別化するうえで強みとなる。

昨春まで月間の出荷は1000立方尺未満だったが、11月から急に2000立方尺に近づき、現在は月1500〜2000立方尺の出荷が続いている。現在は防火構造30分の認定取得を強化している。当初から窯業系サイディングと石膏ボードとの間に100mm厚のウッドファイバーを充てんする構成で、さらにツーバイ工法でも40〜184mm厚（2×4で40〜89mm厚、2×6で40〜138mm厚、2×8で40〜184mm厚）の幅で防火構造試験を行い、現在認定を申請中だ。（特集おわり）

木造軸組工法外壁の防火構造30分の認定を取得していた。これに加え今年2月、40〜100mm厚と幅を持たせる形で同じ認定を取得。この間であれば、50mm厚でも80mm厚でも防火構造30分の仕様となるため、幅広い設計に対応可能となった。準防火地域でも戸建ての2階建てまでなら採用でき、22条区域では制限なく使うことができる。

熱伝導率は高性能グラスウール16Kやロックウールと同等の0.038W/(m・K)で、II-VV地域では壁に100mm厚、天井は150mm厚で次世代省エネ基準を満たす。ボード状だが適度な柔軟性があり、多少大きめに裁断し充てんすることで簡単に隙間のない施工ができる。天然素材ゆえの安心・安全はもとより、国産材活用という他にはない唯一の特徴が差別化するうえで強みとなる。

人にやさしく 地球にやさしく
森から生まれたエコ断熱材「ウッドファイバー」



- 間伐材や林地残材を有効活用
- 木質ならではの調湿性能
- 木軸在来工法で防火構造30分認定取得
- ツーバイ工法防火認定申請中

製品名: ウッドファイバーLD
株式会社 木の繊維
〒065-0018 北海道札幌市東区北18条東1丁目3-3 ともえビル3階
TEL.011-702-3300 (代) FAX.011-702-3232
E-mail:wood@kinoseni.com http://www.kinoseni.com